

Crown English Communication II, p. 67.

Lesson 5**Saving Cherokee**

Languages are endangered when speakers die or move into modern society. Cherokee is one of those languages.

—1

In 1830, nearly 125,000
(1)Native Americans lived in the southeastern United States. But in 1838, they were forced to move west. Over 15,000 Cherokees walked to Oklahoma in the (2)dead of winter. About 5,000 seem to have died. Their (3)descendants are now the Cherokee Nation.

Some Cherokees, under a leader named Tsali, refused to leave. There was a fight and some soldiers were killed. The army told Tsali that if he surrendered and paid the price for the death of the soldiers, the others could stay in their homes.

Tsali surrendered and was shot so that his followers could stay. Their descendants today are the Eastern Band of Cherokee Indians. Tsali is remembered as a hero. The Eastern Band has (4)struggled to keep their culture alive. But by the end of the 20th century, children were no longer learning the language. Cherokee was endangered.

Crown English Communication II, p. 68.

—2

Cherokee is not the only endangered language. Over the past century, around 400 languages—about one every three months—are said to have been lost. Fifty percent of the world’s 6,500 languages will be gone by the end of this century. Almost all the minority languages in the U.S. and Canada are in ⁽¹⁾danger.

Languages disappear for many reasons. The ⁽²⁾dominant language of a country is often the result

Lesson 5 – Section 2

(1) danger ㊦成句 **in danger**, p. 474.

in dánger 危険[危機]に陥って(⇔out of danger) ▶ Your son's life is *in great [grave] danger*. あなたの息子は危篤状態にあります/put A's life *in danger* Aの命を危険にさらす.

- 教科書欄外に *in danger* ⇔ *endangered* と記されているので、意味を想像させてから成句を調べさせる。
- 成句義を参照させて、教科書のこの部分が「アメリカ、カナダの少数言語のほぼすべてが危機に陥っている」という意味になることを確認させる。教科書本文と同じ、*be* 動詞に続いて *in danger* が使われている辞書の第1用例に導き、*danger* の前に危険の程度を示す形容詞を用いる場合があることをチェックさせる。
- すぐ上に「…の危険がある」を意味する *be in danger of A* という成句があるのでチェックさせる。辞書の用例を参考にしながら、教科書同ページ4行目にある「失われる」という表現(*be lost*)を使って、この部分が“Almost all the minority languages in the U.S. and Canada are *in danger of being lost*.”と言い換えられることに気付かせるのもよい。こうした発信活動にも辞書を活用させたい。

be in dánger of A Aの危険[恐れ]がある ▶ This bird is *in danger of becoming extinct*. この鳥は絶滅する恐れがある.

(2) dominant ㊦ **1**, p. 559.

dom-i-nant* /dɑ́(:)mɪnənt|dɔ́m-/ [→dominate]

— ㊦ (more ~; most ~/2, 4は比較なし) **1** (人・物などが) (最も) 有力な, 支配的な, 優勢な, 目立つ; 主要な; (性格などが) 支配的な, 横柄な ▶ the company's *dominant position* in the market 市場におけるその会社の有力な地位/English is the *dominant* language. 英語は優勢な言語である/a *dominant force* 優勢な力.

- 第2用例が教科書本文と同じ *dominant language* を使っている語義 **1** を調べさせて、教科書のこの部分が「優勢[支配的]な言語」という意味になることを確かめさせる。
- 第2用例とその訳をもう一度チェックさせる。教科書67ページの記述や地図から、Cherokee (チェロキー)の人々が北米に住んでいることを踏まえ、Cherokee (チェロキー語)が危機に瀕しているのは支配的言語としての英語の存在があるからだという事実を考えさせるのもよい。

Crown English Communication II, p. 69.

of huge empires. When one country (1)takes over another, the defeated country usually adopts the language of the invaders and makes it the (2)official language. Most countries in Central and South America use Spanish for that reason.

Speaking the official language is the (3)key to jobs, education and opportunity. Sometimes, immigrants decide not to teach their children their native language, because they think it may limit their chances for success.

But does it really matter if a language spoken by only a few people is lost? Whatever you may think, isn't language extinction simply a (4)fact of life?

There are good reasons for not letting languages die. Language is one thing that makes us different from all other living things. Furthermore, for people to keep a unique culture, they must have their own language. Shouldn't it be protected?

(1) take ㊦成句 **take A over [over A]**, p. 1922.

take A over [óver A]・(1)《人に代わって》A〈管理・責任・仕事を引き継ぐ; A〈政党・国など〉の支配権を握る, Aを掌握する《from》(→takeover) ▶I've always wanted you to *take over* this job. 私はずっと君にこの仕事を引き継いで欲しいと思ってきた。(2)《主に株を取得して》A〈会社など〉を買収する, 乗っ取る(→takeover). (3)《元のものより》ある種の人・物がA〈場所・領域〉で優勢になる(㊦そういった変化を望まないことを暗示). (4)A〈家〉に住み始める, A〈建物など〉を使い始める; A〈場所〉を全部使う, 独占する。(5)《事が》A〈人・生活など〉に大きな影響を与えるようになる。(6)《別の場所へ》A〈人〉を連れて行く, A〈物〉を持って行く《to》.

- 教科書本文では *takes over another* と代名詞が続いていることから, 自動詞用法の *take over* ではなく, 他動詞用法の *take A over* の方を調べさせる。
- 教科書のこの部分が, 大国による支配と言語とのかかわりの話をしていることから, 「A〈政党・国など〉の支配権を握る」と記している成句義(1)をチェックさせ, 教科書本文が「ある国が他国の支配権を握ると…」と述べていることを確かめさせる。
- 成句義(1)の前半の「引き継ぐ」という意味も重要なので, 辞書の用例と共にチェックさせるとよい。

(2) official ㊦ 1, p. 1334.

of·fi·cial /əfɪʃ(ə)l/ (㊦強勢は第2音節) [-→office] ((副) officially)
㊦ (通例比較なし/《まれ》*more* ~; *most* ~) [[通例 ㊦の前で] 1 (当局による) 公式の, 公認の, (しかるべき手続きを経た) 正式の (↔unofficial) ▶an official record 公式[公認]記録/an official report 正式な報告/according to official figures 公式発表の数字によると/the official name for A Aの正式名/the prime minister's official residence 首相官邸/an official document 正式文書/an official language 公用語/read an official statement 公式声明を読み上げる/get access to official information 公式の情報を入手する(ことができる)/file an official complaint 正式に苦情申し立てをする/the official website of the singer その歌手の公認サイト。

- 見出し語の発音記号と, それに続く㊦の発音注記があるのでチェックさせる。カタカナ語の「オフィシャル」からの類推で発音しないよう注意させる。
- 教科書本文と同じ *official language* が第7用例に用いられている語義1を参照させる。()を使った意味の補足説明も確認させて, *official language* が「国により正式に認められた言語＝公用語」という意味になることを理解させる。
- 辞書のほかの用例を参照させて, 「オフィシャルな」というカタカナ語だけではうまく訳すことができないケースもあることを確かめさせるとよい。

(3) key ㊦ 2, p. 1055.

2 [[通例 the ~]] 《…の》(理解・成功・解決へつながる) 鍵, 手がかり《to》(㊦toの後は㊦動名) ▶The key to success is information. 成功への秘訣(㊦)は情報にある/This research holds the key to finding [×find] a cure for cancer. この研究は癌(㊦)の治療法を発見する鍵を握っている/The key is, will his supporters really stand behind him? 《主に米》鍵は彼の支持者たちが本当に彼を支援するかだ/The key is [to stay [(比較的まれ) staying] calm. 大事なのは平静でいることだ。

- 教科書本文では, key に続いて前置詞 to が使われていることを確かめさせる。一緒に使われる前置詞など(連語)を示した二重山形かっこ《 》の部分で, 「…の鍵, 手がかり」という場合, 前置詞は to を使うと記した語義2を参照させ, 教科書のこの部分が「公用語を話すことは仕事, 教育, 機会の鍵[手がかり]である」と述べていることを確認させる。
- (㊦toの後は㊦動名)という注記をチェックさせる。さらに辞書の第2用例を参照させて, to に続くのは動名詞であり, 不定詞は用いないことが×を使って示されているので確認させる。

(4) fact ㊦成句 **A is a fact of life**, p. 679.

A is a fact of life A〈好ましくない状況〉は避けられない現実だ, 厳然たる事実だ。

- 教科書本文は否定疑問文になっているが, be 動詞を用いた *A is a fact of life* の形になっていることを確かめさせて, 成句の *A is a fact of life* に導く。時にこのような文レベルの決まり文句も成句の部分に記されていることに注意させる。
- 山形かっこ《 》を使って, A(この成句の場合は主語)には〈好ましくない状況〉を表す語が来ると説明されているのでチェックさせる。「好ましくない状況」が教科書のこの部分では「言語の絶滅」であることを確かめさせる。

Crown English Communication II, p. 70.

—3

Whenever a language is lost, we lose a special way of seeing the world; we lose a unique ⁽¹⁾culture. Cherokee shows how languages carry culture. It preserves ancient wisdom about plants, animals, and people. Cherokee ⁽²⁾not only identifies plants but also tells whether they are safe to eat and whether they can be used as medicine.

Cherokee has a unique way of explaining how people act. In English only about 25% of words are verbs, but 75% of Cherokee words are verbs. They tell not only what happens but also who is acting and/or what is acted upon. For example, take the words “⁽³⁾lawyer” and “police officer.” The Cherokee say a lawyer is “(a person) arguing on purpose with a purpose.” And a police officer is “(a person) catching them finally and for good.”

Writing is one way to preserve culture. Without it, once the last speaker dies, the language is lost forever. Therefore, it is ⁽⁴⁾fortunate that a writing system was introduced by Sequoyah, a Cherokee scholar, in 1821.

Lesson 5 – Section 3

(1) culture 図1, p. 462.

cul·ture /kʌltʃər/ [cult (耕された) ure (ところ)]
 ((形) cultural)
 ① 文化: 芸術, 文化活動 (1) 特定の時代・国における文化やその文化を共有する集団・社会をさす場合には ②; その際しばしば修飾語を伴う。 (2) civilization より精神面に重点をおく言い方 ▶ Japanese culture 日本文化/traditional culture 伝統文化/pop(ular) culture 大衆文化, ポップカルチャー/corporate culture 企業文化/people from different cultures 異なる文化からやってきた人々/the Ancient Greek culture 古代ギリシャ文明。

- 教科書本文では不定冠詞を伴い、a unique culture と可算名詞として使われていることを確かめさせる。
- 語義 1 には ② のロゴが付いていることに注意させる。教科書 3 行目の carry culture (文化を担う), 17 行目の preserve culture (文化を保持する) という表現では culture が不可算名詞として使われていることを確かめさせ、一般的に「文化」という場合は不可算名詞として扱うことを確認させる。
- 語義 1 の注記 (1) 特定の時代・国における文化やその文化を共有する集団・社会をさす場合には ②(…) と可算用法になることを確認させる。教科書の直前の部分が「ひとつの言語が失われるとき、我々は世界を見る特別な方法を失う」という意味になることを確かめさせる。つまり、「ひとつの言語を持つ、ひとつの独自の文化」をさしているため、教科書のこの部分では unique という修飾語を伴って、culture を可算名詞として扱っていることを理解させる。

(2) not only A but (also) B, p. 1308.

not only A but (also) B = not merely [simply, just] A but (also) B 《ややかたく》A だけでなく B も(また) (→ in ADDITION 読解のポイント) (1) 通例 A と B は文法的に対等関係にある要素が用いられる; ↓ 語法 (5) ▶ John not only arrived late but (also) came in the wrong clothes. ジョンは遅れて到着しただけでなく服も間違えて来た (1) (1) John did not [didn't] only arrive late ... は《まれ》。(2) 《くだけて》では John didn't only arrive late. He came in the wrong clothes(,) too. の方が普通) / I was being allowed inside. Not only that, but I'd been given keys. 私は中に案内されるどころだった。そればかりか、鍵も渡されていた。

- 成句は句の中でもっとも特徴的な語の項目末尾に立項されているという原則を確認させる。この句の場合、not, only, but はいずれも意味範囲が広いので、まずは最初の語である not から探させると、not の副詞の成句として挙げてあるのでチェックさせる。only で探した場合、→ を使って not を参照するよう指示があるので、それを確かめさせるのもよい(p. 1347)。

not only A but (also) B → not.

- 成句義をチェックさせて、教科書のこの部分が「チェロキー語は植物の名が何であるかを特定するだけでなく、それらが食用として安全か、薬として使えるかを教えてくれる」と述べていることを確認させる。
- (1) 通例 A と B は文法的に対等関係にある要素が用いられる」という注記に注意させる。教科書本文では identifies と tells という 2 つの動詞が文法的に対等関係にあることを確かめさせる。教科書同ページ 11 行目で使われている not only A but also B では wh 節が使われていることもチェックさせる。
- 余裕があれば、すぐ下の 語法 に説明されている用法も確認させたい。長いコラムなのですべてでなくても、(1) で説明されている人称と数の一致については確認させたい。

語法 not only A but also B
 (1) ①-② 人称・数 主語の位置に現れる場合、動詞の人称・数は動詞の直前の B に一致するのが原則。ただし、主語の位置に現れること自体《比較的まれ》▶ Not only Japan, but also [South Korea, tends [South Korea and China, tend] to regard sport as part of their education. 日本だけでなく韓国[韓国や中国]もスポーツを教育の一環と見なす傾向がある。
 なお、人称代名詞が A と B の要素となるのは《まれ》; → we 1
 [文法]

(3) lawyer ㊦ 1, p. 1088.

law·yer* /lɔːr, 15:jər/
[→law]

— ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 法律家, 弁護士; 法律通 ▶ a family lawyer 顧問弁護士/a defense lawyer 被告側 弁護士/consult a lawyer 弁護士の意見を求める/hire a lawyer 弁護士を雇う。

- 見出し語に続く発音記号で正しい発音をチェックさせる。
- 「法律家, 弁護士」という意味を確かめさせる。教科書のこの部分では, 動詞が多いチェロキー語では, lawyer のことを動詞を使って『目的を持ち意図的に主張をする(人)』と表現する, と述べていることを理解させる。

(4) fortunate ㊦ 1, p. 757.

for·tu·nate* /fɔːrtʃ(ə)nət/ [→fortune]
(副) fortunately

— ㊦ (more ~; most ~) 1 (人などが) «…の点で/…するということ/…であることは» 幸運な, 幸福な, 運に恵まれた [in/to do, in doing/that 節]; [[it is ~ (for A) (that) 節] (A(人など)にとって)幸いなことに…である (㊦ lucky よりかたい語で, 通例より重要なことについていう) ▶ You were fortunate not to be seriously hurt. ≈ You were fortunate in not being ≈ It was fortunate (that) you weren't あなたのけがが大したことがなくて幸いだった (× It was fortunate for you not to be としない)/I was fortunate enough to find a good seat. 運よく良い席が見つかった/the less fortunate in society 社会的に恵まれない人々。

- 教科書本文が it is fortunate that ... と it を仮主語にした文になっていることを確かめさせ, [[it is ~ (for A) (that) 節] という用法指示のある語義 1 に導く。
- () は省略可能な要素を表していることをチェックさせて, 教科書本文は for A が無い形であることを理解させる。「幸いなことに…である」という訳語を確かめさせ, 教科書のこの部分では「チェロキーの学者セコイアにより 1821 年に表記体系が導入されたのは幸運であった」と述べていることを確認させる。
- (㊦) lucky よりかたい語で, 通例より重要なことについていう」という注記をチェックさせる。

Crown English Communication II, p. 71.

However, it is not enough to preserve the language only in written ⁽¹⁾documents. In order to keep the language alive, people must use the spoken language as a regular means of communication.

(1) document 図 1, p. 556.

doc·u·ment* /dɒ(:)kjəmənt|dɒkju-/ [語源は「教訓, 実例」(形) documentary]
 一 図 (㊟ ~s /-ts/) ㊟ 1 (公) 文書, 書類; 証書, 証拠書類; 記録 ▶ a *confidential document* 機密文書/a *legal* [an official] *document* 法律書類[公文書]/sign [fill in] a *document* 書類に署名[記入]する.
 2 [コンピュ] ドキュメント, 文書. 3 (古) 証拠(品).

- ・ 教科書本文では document が written (書かれた) という語で修飾されていることから語義 1 に導く。
- ・ よく使われる名詞として、形容詞や動詞とのコロケーションを確認させることも重要である。辞書の第 1, 2 用例は形容詞, 第 3 用例は動詞とのコロケーションの例としてチェックさせる。特に第 3 用例は言い換え可能な要素を示す角かっこ [] を使い, 「sign (署名する), fill in (記入する)」という document という名詞を使って発信する際に重要な動詞(句)が示されているので注意させる。

Crown English Communication II, p. 72.

—4

Linguists do their part to preserve dying languages by making dictionaries and by recording histories and stories. The Eastern Band of Cherokee Indians themselves are doing their part to make their language live again. They are using it for daily (1)communication and even for discussion of science and math. They have an ambitious program to save Cherokee.

An (2)immersion program has been started in the schools. High school classes are now taught in Cherokee. To (3)graduate, students are required to speak the language. Cherokee is also offered at the

Lesson 5 – Section 4

(1) communication 図 1, p. 385.

com·mu·ni·ca·tion /kəmjuːnikéɪʃ(ə)n/ [→communicate]
 一 図 (㊟ ~s /-z/) 1 ㊟ «…との/…の間の» (情報・意図・感情などの) 伝達, 連絡, 通信, やり取り; 意思の疎通, 心の通い合い[交わり], コミュニケーション «with/between» ▶be in communication with A 《かたぐ》A (人)と(定期的に)連絡を取り合っている/improve [build, establish] the communication between the two countries 2国間の連絡を密にする[確立する]/communication skills 自分の意図を伝える力, コミュニケーション能力/English is now the means of global communication. 英語は今や地球規模のコミュニケーション手段だ/nonverbal communication (身ぶりや表情による)非言語コミュニケーション/There seems to be a lack [failure] of communication between them. 彼らは心が通じ合っていないようだ.

- 教科書本文が daily (日々の)という形容詞で修飾されており, 不定冠詞の付かない不可算用法であることを確認させ, 語義 1 に導く。
- 語義として示されている訳語や()で示された意味の補足説明をチェックさせて, 生徒それぞれがカタカナ語の「コミュニケーション」から連想する意味との共通点・相違点を確認させる。教科書のこの部分では「日々のコミュニケーション[やり取り]のためにそれ(=チェロキー語)を使っている」と述べていることを確かめさせる。
- 辞書の第4用例は言語によるコミュニケーションについて述べている文になっているので参照させる。

(2) immersion 図 4, p. 973.

im·mer·sion /ɪmɜːʃ(ə)n|-j(ə)n/ 図 1 ㊟㊟ (水などに)没す[される]こと. 2 ㊟㊟【宗】没礼 (洗礼法の種類). 3 ㊟ «…への» 没頭, 熱中 «in». 4 ㊟【教育】没入法 (外国語をその環境の中で習得する方法). 5 ㊟【天】潜入 (恒星・惑星がほかの天体の背後に隠れること).

- 教科書本文が has been started in school (学校で始められた)と述べていることから, ()で囲まれた専門分野表示が「教育」となっている語義 4 を参照させる。
- 訳語に続いて()に囲って記された百科的解説を確認させる。教科書本文の次の文もチェックさせて, この部分が「学校ではイマージョン・プログラム(ここではチェロキー語で授業が行われることでチェロキー語を学ぶプログラム)が始められた」と述べていることを理解させる。

(3) graduate, ㊟㊟ 1, p. 841.

grad·u·ate /grædʒuəɪt, -dʒu-/ [grade (学位) ate (を取る)](名) graduation

一 動 (~s /-ts/; ~d /-ɪd/; -ating)
 一 ㊟ 1 «大学などを» 卒業する «from»; «…の分野で» 学位号を取る «in» (1【英】では大学に限定されそれ以外では leave school などとする; 【米】では高校以下の学校および各種学校にも用いる) ▶He graduated from [at] Harvard in 1999 with a degree in law. 彼は1999年にハーバードを卒業し法学の学位を得た (1【英】(主に英)では at を用いることもあるが, ごく【まれ】)/graduate in law from Harvard ハーバードで法律を専攻して卒業した/graduate with highest honors 最優秀の成績で卒業する.

- 後ろに目的語が来ていないこと, 学校の話をしていることから自動詞の語義 1 に導く。
- よく一緒に使われる前置詞など(連語)を示した二重山形かっこ« »に注意させ, 「…を卒業する」と表現する場合は from を使うことをチェックさせる。発信活動に使えるフレーズとして, 辞書の第1用例を確認させるとよい。

Crown English Communication II, p. 73.

local university. It is advancing into the ⁽¹⁾IT age more quickly than anyone expected; you can now use Cherokee on computer programs. There is an application which lets you text in Cherokee letters.

Preserving their language is a matter of ⁽²⁾life and death for the Cherokee. As Chief Chad Smith recently said:

“Don’t forget our legacy Pass it on, stronger and stronger to your children. Let the Cherokee language laugh, speak and sing again. Let our history be known and discussed. ⁽³⁾Live by our wisdom. Don’t let us die as a people.”

(1) IT, p. 1028.

IT information technology; intermediate technology.

- 『ウィズダム英和辞典』では同綴りの単語がある場合、大文字始まりの方が先に出ているので、代名詞の it の前に IT があることを確かめさせる。
- 見出し語に続いて略語が何を表しているか示されているが、教科書欄外に IT=Information Technology と示されているので information の分離複合語(p. 999)をチェックさせる。

◆ ~ **bureau** 情報部. ~ **center** (博覧会・病院などの)案内所. ~ **desk** (ホテル・駅などの)受付, 案内所 (〔英〕inquiry office). ~ **industry** 情報産業. ~ **overflow** 情報過多 (一度に処理する情報が多すぎてうまく行かない状況). ~ **retrieval** 情報検索. ~ **revolution** 〔通例 the ~〕情報革命. ~ **science** 情報科学. ~ **society** 情報化社会. ~ (super)highway 〔the ~〕情報(スーパー)ハイウェイ (高度情報通信ネットワーク構想). ~ **technology** 〔通例単数形で〕情報工学, 情報(通信)技術 (〔略〕IT); 〔-gies〕IT システム一般. ~ **theory** 情報理論.

- 分離複合語は見出し語(ここでは information)の項目の最後に記載されており、見出し語は~ (スワングダッシュ)で簡略表示されているのを確かめさせ、~ technology に導く。
- 〔通例単数形で〕という用法指示や、〔略〕というラベルとともに略号として IT と示されていることにも注意させる。

(2) life 図1, p. 1110.

life /laɪf/ [「生命, 命」>「寿命」>「人生, 生活」]
(名) lifetime

— 図 (●) **lives** /laɪvz/ 【命】 1 ㊦ (抽象的な概念としての)生命, 命 ▶ It's a matter of *life* and [or] death to the company. (くだけて)それは会社にとって死活問題だ (→ life-and-death)/believe in *life* after death [the *life* to come] 死後の世界[来世]を信じる/protect the right to *life* 生存権を守る.

- 辞書の第1用例に教科書本文と同じ表現が使われている語義 1 を参照させる。用例訳を参考に、教科書のこの部分では「自分たちの言語を守ることはチェロキーの人たちには生死を分かたず[死活]問題だ」と述べていることを確かめさせる。よく使われる句として意識させたい。
- 語義番号に続いて㊦のロゴがあるので不可算名詞であることに注意させる。()で囲まれた語義の補足も確認し、「(抽象的な概念としての)命」という意味だと説明されていることを確認させる。
- 語義 2 を参照させ、語義 1 とは対照的に「(個人の)命, 人命」という具体的な命は可算名詞として㊧のロゴが記されていることを確認させる。

2 ㊧ 〔通例 one's ~〕(個人の)命, 人命; ㊦ 生きていること, 生存 ▶ save thousands of *lives* with the medicine その薬で何千人もの命を救う/massive loss of *life* 多数の生命の損失/lose [risk] one's *life* 命を落とす[賭ける]/respect for *human life* 人命の尊重/continue *life* support 生命維持を続ける/A cat has nine *lives*. (ことわざ) 猫に九生あり (しぶとくて簡単には死なないことより).

(3) live¹ 動成句 live by A, p. 1129.

live by A (1) Aを生活の糧にする; Aで生計を立てる ▶ live by hunting 狩猟をして暮らす. (2) A(規則など)に従って暮らす.

- 教科書本文が動詞で始まる命令文であることを確かめさせ、品詞が動詞である live¹ の成句を探させる。
- 成句の A にあたる部分が教科書本文では our wisdom (私たちの英知)であることから、成句義(2)の方が成句義(1)より教科書のこの部分に合っていることを確かめさせ、「私たちの英知に従って暮らさない[生きなさい]」と述べていることを理解させる。